

HIMALAYA

ヒマラヤ

No.345



2000 AUGUST



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

2001年H A J 登山隊隊員募集 中、ネ国境 ヤンラ・カンリ(7,429m)

ガネッシュ・ヒマールと言う名で日本人には馴染み深い山群の主峰がヤンラ・カンリである。

1955年10月24日、スイスの著名な登山家のレイモン・ランベール(41)と、フランスの女流登山家のクロード・コーガン(29)ら3人によって、ネパール側のサンジュン氷河から初登頂された。

60年5月31日、イギリスのP.J.ワレイスとギャルツェン、ノルブ2人のシェルパが主峰の東にあるドームに登頂したが、主峰は断念している。

いまだに第2登を許していないが、今回の計画は、中国領の北面から登頂を目指すもの。北面は1998年のH A J隊がカバン峰の帰途偵察隊として初めて入山し、登路を探った。手つかずの新鮮な山であり、静かな山行が楽しめる。

意欲ある岳人の応募を期待します。

記

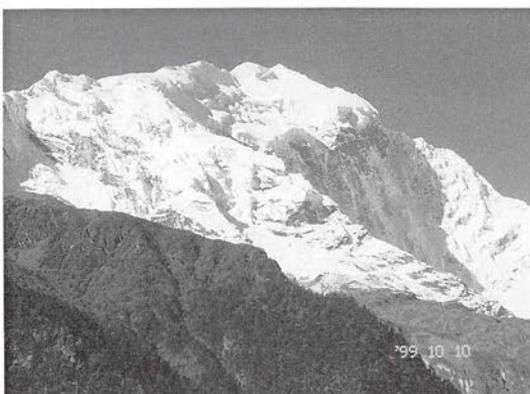
1.期間 2001年9月10日～11月8日(60日間)

2.募集人員 10名程度

3.負担金 100万円

4.資格 冬山の稜線を20kg程度の荷物を持って行動できる登山経験のあること。協調性があること。未知の山に挑むリスクを認識できること。

5.申し込み〆切 2000年9月30日



▲ヤンラ・カンリ北面。中央左上から右下の稜を予定

表紙写真

甘孜寺の本殿の前に集まってきた、気さくな若いラマ僧達は、右手に見える山が「カンカ」、その左隣に聳える針峰群が「デンショッポーラ」、そして、カワロレンを指しながら、難しい発音で「カワロリ」と呼び、「幸せのシンボル」と教えてくれた。(文・青木茂、写真・上野巖)

ヒマラヤ No.345

1. 未踏の山 カワロレンを訪ねて 中国四川省山岳調査隊
6. スロヴェニアの軌跡(中) 中川 裕
8. ヒマラヤ・ジータル通信2 2000年春の結果
9. ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・トピックス・BOOKS・ヒマラヤから〉
10. 若尼峰(ルオニ 6,610m)登山計画
13. スパンティーク(7,027m)登山計画
16. 平成12年度 日本ヒマラヤ協会通常総会報告
24. 寸感・事務局日誌

未踏の山 カワロレンを訪ねて

中国四川省山岳調査隊

はじめに

1998年に全地域を対外開放したばかりの、中国・四川省の北西部に広がる甘孜チベット族自治州・甘孜の南西に位置する未踏峰「カワロレン・5,992m」に、7名の隊員と近い将来の登山を目的とした調査のために出かけてきた。

登山調査員5名と学術文化調査隊員3名の計8名で隊を編成し、名称を、『山梨県山岳連盟中国四川省山岳調査隊』とした。調査期間は、隊員各々の都合もあり、平成11年9月7日～19日までの13日間という短期だったが、「まずは行ってみなくては始まらない」を合い言葉に、出発することにした。

今回の計画は、1999年5月23日に池袋で行われた中国登山協会代表団の歓迎レセプションの席でお会いした、四川省登山協会の姜誼秘書長に手配をお願いしておいたので、その後の準備等は、FAXと国際電話を使いながら比較的スムーズに行うことが出来た。

成都へ

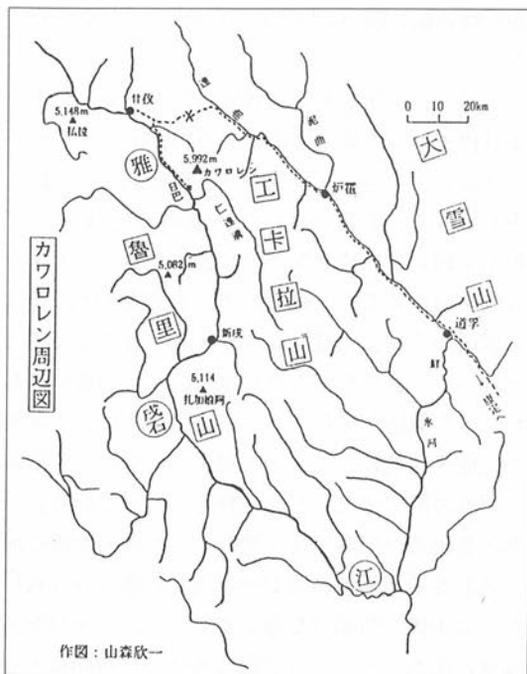
9月7日、甲府を午前3時03分発の急行アルプスで発ち、羽田からJASを乗り継ぎ、関西国際空港から、午前10時08分発のJD235便で広州に向かった。広州国際空港で約5時間をトランジットで過ごした後、午後6時25分、広州発SZ4304便に乗り換え、甲府を出発してから約17時間、現地時刻の午後8時20分に、成都国際空港に到着した。

夜遅いにもかかわらず、四川省登山協会のスタッフが、笑顔で迎えてくれた。今井通子さんの(株)ル・ベルソーの李慶さんから、HAJの山森さんとも旧知の間柄で、連絡官を努めてくれる

高敏さん、運転手の高偉さん、そして通訳の黄穎さんの3名を紹介される。

宿は、西藏飯店に決まっていた。聞いたところによると、チベット族自治州で経営しているらしく、何かと都合が良いらしい。さっそく、深夜12時過ぎまで、日本語と中国語を交えながら、ミーティングが始まった。高連絡官は、分厚い地図を広げながら、「途中、危険な場所が2カ所あるので、そこは昼間通過したい」と、疲れている私達に、容赦なく言い放った。緊張と驚きが交差した。それに加えて、甘孜までの道路事情が予想以上に悪いのを承知で、4日かかるところを2日で移動すると宣告されてしまった。山梨でお世話になった四川連合大学の李映福副教授への表敬訪問等を延期し、予定を早めて出発することにした。

チベットの世界へ



▼カワロレンⅡ、皿間の懸垂氷河



9月8日、四川省登山協会を訪問の後、中古のトヨタ・コースターで、全員が心と体を揺らしながら、甘孜までの不安で長い旅を開始した。成都から通行止めになった国道318を迂回しながら、小雨の中を、黄金色の棚田に囲まれた、地図にも載っていない凸凹道をゆらゆらと進んだ。青衣江の辺にある雅安市の雅州賓館までは、約4時間を費やし、午後5時40分に到着した。雅安の手前で案内された高速道路が完成すると、一年後、成都から雅安までの所要時間は、1時間程になると聞いたが、小雨の降る湿気の多い雅安の街は、あまり快適ではなかった。雅安の3大名物は、『雅安美人』と『青衣江で獲れる魚』に『サンダル製品』で、ちなみに美人が多いのは、「多雨多湿の気候が女性の肌に潤いを与えるのが良い」とのことだった。

9月9日、午前8時に雅安賓館を出発、いよいよ甘孜チベット族自治州の入り口にある「天候が良ければ、ミニヤ・コンカ（7,556m）を望むことができる」と聞いていた、標高約3,000mの二郎山を越える。残念なことに、憧れのミニヤ・コンカを眺望することは叶わず、高連絡官に、「この場所からは、一度もミニヤ・コンカを見たことはない」と言われたときには、なんだか裏切られたような気持ちになった。この山の下に、1年後の完成を目標にトンネルを掘っていたが、未舗装で揺れの酷い道だった。昼食を全天県で摂り、二郎山を越えたのが午後3時50分、折多河が康定河と名前を変える街、康定市の水井酒楼に辿り着いたのは午後9時30分を過ぎていた。遅い夕食を済ませ、冷水シャワーに悲鳴をあげて、布団に入っ

た時には、時計の針が午前12時を過ぎていた。

憧れのカワロレン

9月10日、いよいよ、憧れの地だった甘孜チベット族自治州に入る。午前5時40分、厚めの衣類を身につけ、夜明け前の冷えきった康定の街から、一気に標高4,298mの折多山に向かう。午前7時30分、峠のチョルテンの前に到着した。峠から曲がりくねった舗装道路を暫く下ると、明らかに康定までの家並みとは違う石造りの家が目立つ様になってきた。各家から、青い空に立ち上る一筋の煙、チョルテンとゴンパ、康定から僅か2時間の所で見つけた、明らかに違う人々と違う文化の存在を自分の目にして、中村保さんの著書『ヒマラヤの東』を思い出していた。午前9時瓦澤で美味しいワンタン風の朝食を済ませた後、乾いた高原の町『八美鎮』を目指した。標高約4,000m峠は、エーデルワイスと色とりどりの高山植物が咲き誇り、右手に高連絡官が「神山」と呼んだ、白いピラミダルな海子山（5,820m）の眺めを満喫しながら、午前11時40分に八美鎮を通過した。その後は、道孚、炉霍と順調に車を走らせ、甘孜まであと2時間程の所迄来た午後8時過ぎ、突然、標高3,900mのカサ湖の先で1時間程車を止められた。ドアをロックし窓を閉め、暗闇の中で静かに耐えることにした。夜10時、16時間をかけて、甘孜の街に、無事到着することができた。

9月11日、早々に装備を整え、カワロレンの調査に出かけることにした。カワロレンは、あいにく雲の中にあっただが、甘孜の中心街から、白いゲルの向こうに聳える山並みを眺めながら、約35km



▲素朴なチョルテン

程離れた雅龍江・左岸の崖道を新龍県・日巴まで入り、南西面からの山容と2峰と3峰間の懸垂氷河の状態を調査した。同行の山梨学院大学の十菱教授は、カワロレンの岩質を、脆い粘版岩の様に見えると教えてくれた。日巴にある小学校の入り口で休憩していると、腰に50cm超の刀を差した村長さんらしき人物の登場に、全員が度肝を抜かれた。彼は、「この山には誰も登っていない」こと、そして、我々が「初めての外国人（事実是不明）である」と話してくれた。村の人達としばし歓談の後、高連絡官に「さらに奥まで進み、調査したい」と伝え出発を促したが、無念にも「これ以上は無理」と断言されてしまった。渋々、北面からの調査に変更することにした。途中、昼食を雅龍江の河原で戴くことにした。メニューは、テントで食べる予定だった、四川省のカップ麺がメインだったが、激辛大好物の私にとってはとてもありがたい一品だった。昼食を終え、国道317に出る手前で雅龍江を振り返ると、カワロレンと雅龍江の谷は、電光と雷鳴の黒い渦の中にあった。日巴の集落を発つのが一時間遅ければ、帰ってこれなかっただろう。また命拾いした。高連絡官が持っていた地図に示された『蝶の形』をした北面氷河の近くまで入よう促したが、これまた時間切れで、明日行くことになってしまった。甘孜への帰路、甘孜寺に立ち寄りカワロレンを眺めることにした。甘孜寺の本殿の前に集まってきた、気さくな若いラマ僧達は、右手に見える山が「カンカ」、その左隣に聳える針峰群が「デンショッポーラ」、そして、カワロレンを指しながら、難しい発音で「カワロリ」と呼び、「幸せのシンボル」と教えて



▲甘孜寺から見た甘孜の街

▼甘孜の南、デンショッポーラ（約5,600m）



くれた。この夜「カワロリ」に雪が降った。悔しいのは、あと8mの高さがあれば、未踏の6,000m峰になれたことだった。

別れを告げて

9月12日、昨夜は、甘孜招待所の一室に、高連絡官、連絡官の実弟で運転手の高さん、通訳の黄さんに強さんも集まって日中友好の集いが催され、お互いに手に持つビール瓶とビール瓶を上下に擦り合わせて「乾杯」「乾杯」を繰り返していた。どうも私は、その時からただ1人勘違いをしていたらしい。「甘孜の史跡調査をしながら道に戻り、その途中で、カワロレンの北面への入り口を調べる」と聞いたときには、北面氷河に近づけるとばかり思い込んでいたので、とても残念でならなかった。午前11時過ぎ、ヤクの毛で編んだ黒いテントが点在する高原で停車する。遥か彼方にある雀儿山まで続く山脈の景色を、ヤクの糞と高山植物に足を取られながらカメラに何度も収めたが、確か(?) 9月9日の夜に、マイクロバスを止められたのがこの辺りだった。カサ湖の集落で、残った四川カップ麺を温め、簡単な昼食を済ませることにした。カワロレンの北面への入り口に当たりそうな場所を尋ねてみたが、不明のまま、カサ湖を午後1時40分に出発し、約100km離れた道孚招待所に午後5時40分到着した。

9時13日、午前10時15分、道孚招待所を出発する。八美鎮で約1時間の昼食を済ませ、途中1時間程、塔公郷の塔公寺を見学した後、康定に向かった。瓦澤のスタンドで給油を終えて、「いざ、康定へ」と、スターター・キーを捻ったところで音



が消えた。解らない？私も、エンジンの下に潜り込む。油で衣類を汚し、待つこと1時間。全員で、マイクロバスを押し、やっとのことでエンジンに火が入った。原因は不明のまま、午後3時40分に出発する。エンジンが止まらないことを願いながら、標高4,295mの折多山まで続く不安の長い登りを終え、康定賓館にやっとのことで到着したのは、午後8時15分だった。車は、明朝の出発に備えて、坂道の上に停車することにした。

9月14日、午前9時20分、この日も昨日と同様に、車を押すことから1日が始まった。午前11時20分に二郎山の手前に到着。前日まで降った雨の影響から、道路の状況は一変し、道は、巨岩の落ちる急流の川と化していた。4時間以上を費やし、



▲東方からみた甘孜南方の山々

二郎山の出口で、なんとか昼食にありつけたのは、午後3時を過ぎていた。午後4時30分、約60台の人民解放軍・輸送部隊の後ろに付きながら、天全河沿いに渋滞する国道318を、雅安までなんとか進むことが出来た。二郎山越えと変わらない、崩れた路肩と崖を気にしながら、午後8時40分、9月8日と同じ雅安賓館に、車と自分の身体を休めることが出来た。

9月15日、泥と埃にまみれたマイクロバスを押し続ける仲間の姿は、歪んだバンパーと疲れた身体とが、まさに同化していた。9時45分、成都に向けて出発する。雅安から成都への帰り道は、行きとは違い『眉山』を経由し、成都に入る手前のレストランで昼食にした。美味しい川魚の料理に満足しながら車に戻ろうとした時、今度は、車体にショックアブソーバーがぶら下がっているのを発見、その痛々しい姿に、全員が疲れと驚きで絶句した。午後4時、西藏飯店の玄関前に、壊れた車体と汚れた身体を横付けすることが出来た時には、正直なところ「ホッ」とした。

日 程

9月16日、休養日。四川連合大学の李映福副教授のご厚意で、広沙市にある三星堆遺跡博物館と四川連合大学博物館を案内していただいた。そし

て、市内観光を兼ねながら山岳資料を入手するため、成都市内の書店をはしごすることで一日を終わった。日本への帰りは、9月17日、CZ3404便で成都を立ち、広州に一泊。翌9月18日に、広州国際空港からJD234便で中国を離れ、午後7時09分、関西国際空港に到着した。帰国手続きを済ませた後、再びJD516便に乗り継いで、羽田に戻ってきたのは、午後10時09分だった。慌ただしく荷物を受け取ると、全員で、新宿までの全ての駅の改札口からホームを走り、新宿発23時50分の急行アルプスに飛び乗った時は、発車まで1分を切っていた。9月19日、午前2時08分、甲府駅に無事戻ることが出来た。

おわりに

本当に短い12日間だった。京都の嵐山で開催された日山協・国際委員総会でお会いした山森さんに相談した時、「行って来るだけだね」と一言返されたことを思い出す。山梨岳連のポスト創立50周年記念海外登山の候補地探しから始まった今回の調査だったが、物語は、『起承転結』しなけれ

▼道孚県の高原の山



ばならないと、強い思いこみを持っている私は、今回の旅を調査だけで終わりとくなくと思っている。6,000mの高さに8m足りない未踏の山・カワロレンだったが、感傷的な気持ちに浸ろうなども思わない。何とかして登ろうと思っている。

(文：青木茂、写真：上野巖)

青木茂(隊長・総務・医療)、上野巖(写真記録)、渡部壮一(山岳及び学術調査)、十菱駿武(学術調査)、細谷晋一(山岳調査・庶務・会計)、太田一人(山岳調査・食料・記録)、二階堂祐介(山岳調査・輸送・記録)、嫌久巧(学術調査・記録)

山の情報誌「岳人」

GAKUJIN

岳人

毎月15日発売(日・祝日の場合は前日) 定価700円

■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店で承ります。直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用紙に「岳人何月号」からお書きのうえ、送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、ご送金ください。郵送料は124円です。年間購読料は8,900円で送料は当社負担です。お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたらお取り替えいたします。

2000年

特集

- | | |
|--------|------------------|
| ★ 1月号 | 雪山入門 日本の山を楽しむために |
| 2月号 | 現代山岳スキー 思想・用具・記録 |
| ★ 3月号 | 日帰り縦走、ひと味違うハイキング |
| 4月号 | 日本列島、恵みのブナの森を訪ねて |
| ★ 5月号 | 陽光の日本アルプス |
| ★ 6月号 | 日本全国、知られざる花の名峰 |
| 7月号 | 夏こそ、海と島の山旅 |
| 8月号 | はるかなる源流の峰々へ |
| 9月号 | 一度は泊まろう静寂の山小屋 |
| ★ 10月号 | 紅葉のみちのくの山並み |
| 11月号 | 冒険、修験、岩塔の山 |
| 12月号 | 野生動物と出会う山 |

(★は特大号・800円となります)

東京新聞出版局 (中日新聞) 〒108-8010 東京都港区港南2-3-13 ☎(03)3740-2674(直)
東京本社/ 全国の書店で発売中/ 中日新聞販売店でも取りつぎます

スロヴェニアの軌跡 (中)

中川 裕

1991年6月、スロヴェニアは旧ユーゴスラビア諸国の中でいち早く独立を宣言した。クロアチアやセルビアとは異なり、スロヴェニア人は歴史上はじめて民族の独立を勝ち得た。民族意識の高揚、社会の混乱のなかで、この年の春、二人のスロヴェニア人がヒマラヤ登山史に残る登攀をしている。

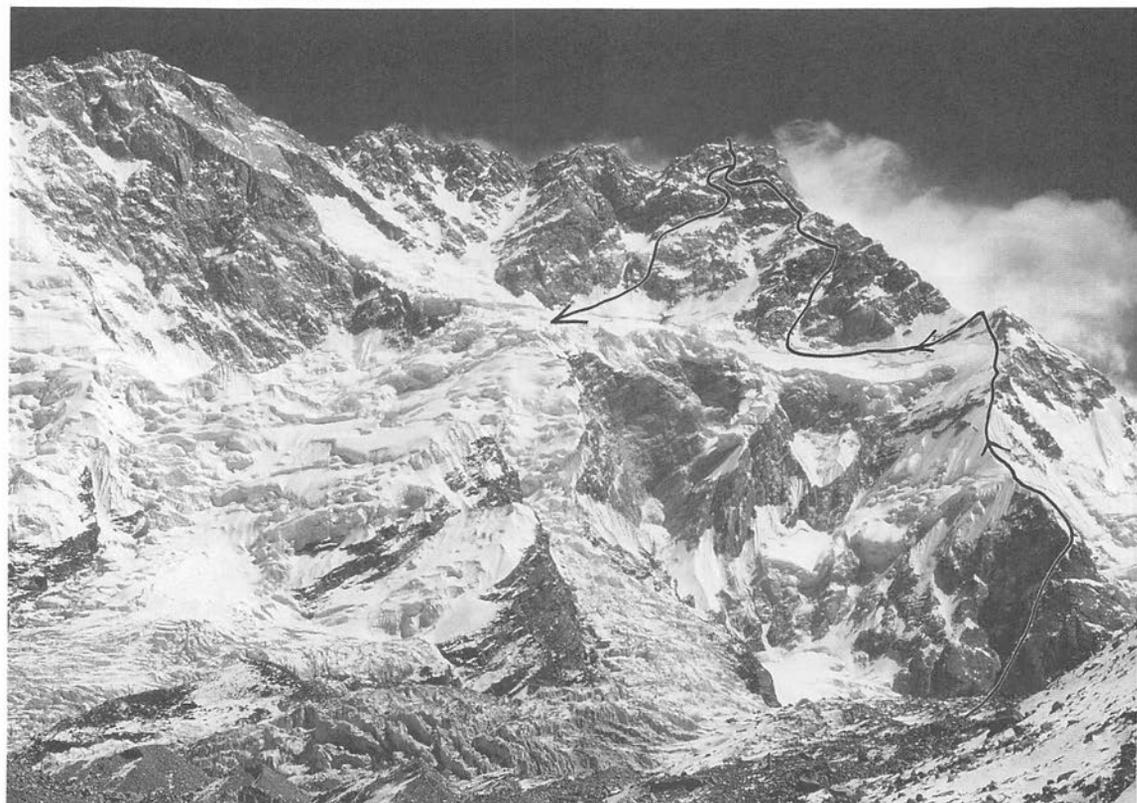
トーネ・シュカリャ隊長以下12人のスロヴェニア人とクロアチア人、ワンダ・ルトキェヴィッチ等のポーランド女性ペアからなるこの隊は、カンチェンジュンガ南峰(8476m)南西稜初登、主峰、中央峰、タルンピークなどに登頂。その後、スロヴェニア人が度重なる挑戦をするジャヌー東峰東壁にも挑んだ。

カンチェンジュンガBCを基点としてヤルン氷

▼カンチェンジュンガ南西面、実線がスロヴェニアルート

河周辺を登りまくったこの登山のハイライトは、マルコ・プレゼリ(26)、アンドレイ・シュトレムフェリ(36)による南峰南西稜初登だ。標高差3kmに及ぶ未踏の岩稜を、二人はほとんどロープを結ばずに5日間で登頂。ノーマルルートを登っていた仲間のキャンプに下降した。したがって完全なアルパインスタイルとは呼べないが、輝かしい記録である。この隊はノーマルルートでカンチェンジュンガ女性初登頂を狙っていた仲間が遭難、その時点で登山は中止となる。

翌年秋、プレゼリ=シュトレムフェリペアは三度に及ぶ挑戦を退け未踏を保っていたチベットのメンルンツェ(7181m)南東壁を2日間で登攀、10月23日に主峰に登頂し翌日壁のとりつきまで下降



スロヴェニア主要登山年表 (1991~1999)

年	山名	登頂者
1991	カンチェンジュンガ南峰(8,476m)南西稜 アンナプルナ I (8,091m) 西壁7,800mまで	マルコ・プレゼリ、アンドレ・シュトレムフリ スロヴァコ・ズヴェチッチ単独
1992	メンルンツェ(7,181m)南西壁	アンドレ・シュトレムフリ(36)、マルコ・プレゼリ(27)
1994	シニオルチュー(6,887m)北東壁 ランシサ・リ(6,427m)西壁	ヴァニャ・フルラン、ウロス・ルパル ヴァニャ・フルラン単独
1995	ガッシャーブルム I 峰(8,068m)スノーボード滑降 ガッシャーブルム IV 峰(7,925m)西壁	マルコ・カー、イズトク・トマジン スロヴァコ・ズヴェチッチ単独登山中に行方不明
1996	アマ・ダブラム (6,828m)北西壁 ボバイエ(6,808m) ナンパ(6,755m) アピ(7,132m)	ヴァニャ・フルラン、トマジ・フマル トマジ・フマル メイティク・ヨスト、ピーター・メズナー デュシャン・デベラク、ヤンコ・メグリク
1997	ヌプツェ北西峰(7,742m)	ヤネズ・イエグリッチ、トマジ・フマル
1999	ギャチュンカン(7,952m)北壁 ダウラギリ I 峰(8,167m)南壁	トマジ・ヤコフィシス、ピーター・メズナー、マルコ・カー、メイティク・ヨスト、マルコ・プレゼリ、 アンドレ・シュトレムフェリ トマジ・フマル単独

した。

1993年、スロヴェニア人達はヒマラヤで活躍していない。この年、カロ、イエグリッチ、プレゼリといった面々はヨセミテで「ジュリー・ロジャー」「ワイオミング・シーブランチ」といったA5のルートを再登していた。

1994年春、スロヴェニア山岳会は若手の育成の登山隊をインド・シッキムのシニオルチュー(6887m)に派遣、北東壁から世界最美の山に登頂する。この時のメンバーのヴァニャ・フルラン(28)は秋にランタンのランシサ・リ(6427m)北西壁を単独で登攀10月8日に登頂した。

1995年、プレゼリ=シュトレムフェリペアはパタゴニアの岩峰パイネに、パタゴニア最難ルートと呼ばれ「ボーン・アンダー・ア・ワンダリングスター」を開拓、健在をアピール。

一方カラコルムでは、イズトク・トマジン、マルコ・カーといった若手がガッシャーブルム I 峰(8068m)からのスノーボード滑降(ジャパニーズ・クーロワール)に成功している。

同じ頃、アイガー北壁ハーリールート

のソロ、グランドジョラス北壁新ルート単独初登、1991年にアンナプルナ I 峰(8091m)西壁を単独で完登、頂上は逸したが、第2のチョセンとして頭角をあらわしていたスラヴコ・スペッチッチがガッシャーブルム IV 峰西壁で消息を絶つ。同じ頃登山をしていた韓国隊によれば雪崩により遭難したと推測されている。この年の春にトマジ・フマルがアンナプルナ I 峰の頂に立っている。

この頃、国家の独立という民族意識の高まりと、歩調を合わせるように、90年チョセンのローツェ南壁ソロ、91年カンチェンジュンガ南峰南西稜と、ヒマラヤ登山史に新たなページを加えてきた彼らも、独立を勝ち得た後、経済の混乱するなかで、かつてポーランドがそうであった様に、社会主義の保護の消失とともに登山活動も縮小して行くかに見えた。さらに70年代から80年代初登、ヒマラヤ登山をリードしていたイギリス登山界がたどったと同様、主要なクライマーが次々とその自己表現のなかで命を失って行く。しかし、この国は、他の国と歩んできた道程が違うのと同様に、踏み出して行く方向も異なるものだった。(次号)

2000年春の結果

ホームページやEメールを通じて流れてくる大量の情報を整理してお届けするヒマラヤ・デジタル通信。情報の質にはまだまだ問題は多いが、外国の登山隊の動向をいち早くお届けしたい。

現在わかっているだけでチベット側も含めて90近い隊が、春に登山活動をした。その60%以上が8千m峰を目標としたものである。ネパール内の8千m峰ではアンナプルナは全ての隊が敗退。ダウラギリI峰は不明で、後は多くの隊が登頂に成功している。

遭難はカンチェンジュンガでシェルパ1名が、マカルー登頂後に隊員1名。エベレストの北側では3名が遭難したと伝えられているが、詳細は不明である。チョー・オユーでもロシア隊の2名が遭難死亡した。

エベレスト (8,848m)

今春の南側（ネパール側）からの登頂者は南東稜と南稜から81名。登山隊の数は細分化すれば20を超えている。

北側（中国側）からは60名以上が登頂したとの情報もある。しかし、現時点で氏名がわかっているものは40名である。全般的に天候には恵まれなかったようだが、ミレニアムイヤーの登山隊ラッシュが、大量の登頂者を生んだ様だ。

韓国の二人のクライマー

14座完登を目指してカラコルムへ

カンチェンジュンガ (8,586m)

韓国隊（ゴ・インキョ 隊長以下7名）は南西面ノーマルルートから5月19日に2名が登頂した。登頂者の厳洪吉（ウム・ホンギル）39歳はこれで8千m峰13座に登頂。この夏残るK2に挑み14座完登を目指す。なお同隊では4月23日にシェルパ1名が死亡している。

インドのITBP（インド＝チベット国境警備隊）隊（スニル・ダッタ・シャルマ隊長以下7名）は5月20日に隊員1名が登頂に成功している。

マカルー (8,463m)

韓国隊（キム・ヒョンウ隊長以下6名）が5月

15日に北西稜ノーマルルートから隊員2名とシェルパが登頂した。登頂者は朴英碩（パク・ヨンソク）36歳は12座目15回目の8千m峰登頂となり、14座完登を目指して夏はカラコルムへ向かう。残るはブロード・ピークとK2。

ドイツ隊（Gotz Weigand 隊長以下7名）5月15日にノーマルルートから隊員5名が登頂したが、下降中に1名が死亡した。

カンテガ (6,779m)

急峻な北壁をロシア人のヴァレリ・ババノフ（34）が5月27・28日単独で登攀、悪天のため頂上は断念、29日に下山した。

おすすめのホームページはこれだ！

この夏、K2のパキスタン側からの登山の様子を毎日伝えてくれるのがエベレストニュースだ。14座完登を目指しているH・カーマランダとブラジル人がバルトロ側の他隊の動向も伝えてくれる。春のネパール結果、今春のエベレスト登頂者リストも掲載している。ちょっと見にくい慣れれば宝の山だ。

<http://www.everestnews.com>

中国側チョゴリ北稜アメリカ隊の登山の様子は

<http://www.mountainzone.com>

で見ることが出来る。このページにはムスターグ・アタ・登山のページもある。

<http://www.risk.ru/eng/>

ロシアのこのホームページではスパンティークのあのゴールデンピラー新ルート挑戦と、ラットクIII峰登山のニュースが随時提供されている。ロシア語が出来ないのが残念だが、英語のページは簡略でかえって見やすい。

だいたいこの三つのホームページを押さえれば、このデジタル通信は読む必要なくなってしまうのだが。

地域ニュース

《中国》

中国登山隊荷持込みについて

6月13日、中国登山協会から「中国登山の際の持込み隊荷」について、以下のような情報が伝えられた。

記

北京国際空港は中国政府の顔を代表する。税関商品検査等は非常に厳格です。目下、中国へ来る登山荷物の中で困難をもたらすものは主に酸素、ガス、食品、薬品等です。最近、中国へ来る登山荷物は税関内に阻まれて、検査を受ける期間も長くなったことによって、倉庫使用料及びその他の費用が増大しました。

今後、中国登山隊が荷物を持ち込む場合は、次のような方法を使ってもらいたい。

- 1.少量の荷物は登山隊入国と一緒に持ち込むこと
- 2.大量の荷物は船で天津新港まで輸送すること
- 3.チベット内の登山隊はザンムーから持ち込む
- 4.登山隊荷物を北京に空輸しないこと

《ネパール》

ルクラ空港は改修工事のためフライト便が以下のようになる。

9月1日～2001年1月中旬 定期便のみ運行

(※9月16日～12月31日説もある)

1月中旬～ 完全運休

(※1月1日～4月30日完全運休説もある)

ヘリコプターのチャーターは、ジャンボチェまで可能。ルクラまでヘリの定期便をとの説もあるが不確定。(情報提供：コスモトレック)

トピックス

インド製「卓上カレンダー」のご案内

ヒマラヤン・クラブの関係者がインドで2001年の卓上カレンダーの販売を希望している。表紙を入れたヒマラヤの山、川、花など13枚で、ボンベ

イから個別発送(個人宛に年賀などの挨拶文などを入れて)して、品代1.5、送料1.5の1通3ドル程度です。年末・年始の挨拶代わりに友人宛に利用していただけないでしょうか。尚、この販売代金の20%がヒマラヤン・クラブに協賛金として入るとのことです。検討していただける方はH A J事務局へご連絡下さい。見本があります。

BOOKS

登山の医学ハンドブック

「日本登山医学研究会」刊。ヒマラヤ登山の高所医学の基礎知識の普及に努められた大森薫雄、斎藤惇生、田中壮吉、中島道郎、長尾梯夫、山本正嘉らが分担執筆している。内容は、登山医学概論/登山中に起こり得る現状/登山中に発病し得る疾患/疫病をもっている人の登山における注意/登山中に必要な救急処置法/登山に携行したほうがよい医療器械と医薬品/登山における栄養をめぐる諸問題/ヒマラヤ高所医学

B 6判 234頁 杏林書院 2350円+税

ヒマラヤから

チョゴリ便り

イスラマバード、フンザで買い出しを終わり予定通りです。後はカシュガルでの買い出しで全ての装備、食料が整う予定です。北稜のアメリカ隊は、3日早くクンジュラ峠を越えています。

又、日本を出発する折、CMAからのFAXで我々の連絡官は趙玲々さんが担当する旨の連絡があり、タシクルガンの再会を楽しみにしています。5月29日 フンザにて 坂本 正治

東京集会のお知らせ

日 時	7月31日(月)午後7時～
内 容	暑気払い
場 所	H A Jルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分) 又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)

若尼峰（ルオニ 6,610m）登山計画

ごあいさつ

日本ヒマラヤ協会（英文略称：H A J）は、広くヒマラヤ地域の登山・踏査・自然科学・人文科学について研究・実践するヒマラヤ愛好者約800名で構成する全国組織の任意団体であります。

中国につきましては、1983年に初めて踏査隊を派遣して以来、56隊の登山・踏査隊を派遣し、七千メートル峰だけでも4座の初登頂に成功しております。

この度、チベット自治区の東部にあります未踏峰「若尼峰・6,610m」に登山隊を派遣することになりました。若尼峰は、1986年に中国で発行された「西藏氷川」に掲載された古い一枚の写真を手掛かりとして申請から13年目にして中国政府から登山許可が交付された山であります。

若尼峰のあるチベット東部の崗日嘎布山群は、中国の第一級自然保護区内にあるため入域が厳しく制限されております。山はもとより、気候に関しても未知の地域であります。加えてこの地域の自然環境の厳しさは、日常生活圏でありながらも常時大規模な土砂崩れに見舞われております。

もとより、大自然は人知を遥かに超えた力、パワーを秘めております。これまでの経験を十分に活用しながら、細心の注意を払い且つ迅速な行動により、所期の目的を達成する所存であります。

また、この登山を通して日中登山親善交流を果たしたく努力する所存であります。

なにとぞ、この趣旨をご理解いただきまして皆様の絶大なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2000年7月

日本ヒマラヤ協会

若尼峰登山隊

隊長：山森 欣一

計画の概要

1. 隊の名称

日本ヒマラヤ協会・若尼峰登山隊2000年

(H A J RUONI EXPEDITION 2000)

2. 派遣母体

日本ヒマラヤ協会

3. 目標の山

中華人民共和国、西藏自治区察隅県
若尼峰（ルオニ 6,610m）未踏峰

4. 目的

若尼峰の初登頂
山岳自然環境の保全（テイクイン、テイクアウト運動の実践）
日中友好親善登山交流

5. 登山期間

2000年7月28日～9月10日

6. 隊の構成

山森欣一隊長以下6名

7. 推進の組織

日本ヒマラヤ協会・若尼峰登山実行委員会
会長：山森欣一（H A J理事長、隊長）
実行委員：八木原暎明（同 常務理事）
“ 尾形 好雄（同 “ ）
“ 岩崎 洋（同 “ ）
“ 中川 裕（同 “ ）
“ 野沢井 歩（同 “ ）
登山隊隊員

8. 隊の事務局

170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7
萬栄ビル501号
日本ヒマラヤ協会
電話 03-3988-8474

夜間：隊出発まで 03-3680-2280 山森欣一
隊出発後 03-3907-6847 中川 裕

日程

7月28日（金）成 田 ～ 北 京（飛行機）
29日（土）北 京 ～ 成 都（飛行機）
30日（日）成 都 ～ ラ サ（飛行機）
31日（月）～8月1日（火）ラサ滞在
8月2日（水）ラ サ ～ 八一鎮（ジープ）
3日（木）八一鎮 ～ 波 密（ジープ）

4日(金) 波密 ~ ラグー (ジープ)
 5日(土) ラグー ~ B C (徒歩)
 6日~9月1日(登山期間)
 9月2日(土) B C ~ ラグー (徒歩)
 3日(日) ラグー ~ 波密 (ジープ)
 4日(月) 波密 ~ 林芝 (ジープ)
 5日(火) 林芝 ~ ラサ (ジープ)
 6日(水) ~ 7日(木) ラサ滞在
 8日(金) ラサ ~ 西安 (飛行機)
 9日(土) 西安 ~ 北京 (飛行機)
 10日(日) 北京 ~ 成田 (飛行機)

隊員名簿 (年齢は出発時)

隊長: 山森 欣一 (1944.2. 生) 56歳

- 1) 東京都江戸川区
- 2) 日本ヒマラヤ協会 ☎03-3988-8474
- 3) 山嶺登高会
- 4) 1975 インド、ヌン(7,135m)副隊長
 1978 パキスタン、ハチンダール・キッシュ
 (7,163m) 副隊長
 1980 ネパール、カンチェンジュンガ(8,586
 m)偵察隊長
 1981 ネパール、カンチェンジュンガ隊長
 1982 インド、クン(7,077m)隊長
 1984 中国、ナムナニ(7,694m)偵察隊長
 1985 中国、ギャラ・ベリ(7,294m)偵察隊長
 1986 中国、ゲニ(6,204m)偵察隊長
 1987 中国、ラプチュ・カン(7,367m)隊長
 1989 中国、シャラリ(6,032m)隊長
 1991 中国、シュエバオ・ディン(5,588m)
 秘書長
 1991 中国、ミニヤ・コンカ(7,556m)隊長
 1992 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)隊長
 1992 中国、クラウン(7,295m)隊長
 1993 中国、ユイチュ(6,179m)隊長
 1994 中国、ミニヤ・コンカ(7,556m)隊長
 1996 中国、ヤンラ・カンリ(7,429m)偵察
 隊長
 1997 中国、クーラ・カンリⅡ(7,418m)隊長
 1998 中国、カバン(6,717m)偵察隊長
 1999 中国、カバン(6,717m)隊長

1999 中国、ナムナニ(7,694m)隊長

副隊長: 樋上 嘉秀 (1944.6. 生) 56歳

- 1) 大阪市東成区
- 2) 交楽荘薬店
- 3) 飄逸沢遊会
- 4) 1993 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂
 1994 中国、ユイチュ(6,179m)登頂
 1995 インド、ヌン(7,135m)副隊長
 1996 中国、チュルー(6,168m)
 1997 中国、クーラ・カンリⅡ(7,418m)副
 隊長
 1998 中国、カバン(6,717m)偵察
 1999 中国、カバン(6,717m)
 1999 中国、ナムナニ(7,694m)〔グナ・ラ
 (6,902m)登頂〕

登攀隊長: 野沢井 歩 (1964.8. 生) 35歳

- 1) 神奈川県川崎市
- 3) バーバリアンクラブ
- 4) 1991 ネパール、マカルー(8,463m)
 1992 インド、ヌン(7,135m)登頂
 1993 ネパール、ダウラギリⅠ(8,167m)登
 頂
 1993 アルゼンチン、アコンカグア(6,959m)
 登頂
 1994 ネパール、プモ・リ(7,161m)隊長・
 登頂
 1995 パキスタン、ディル・ゴル・ゾム(6,7
 78m)登頂&ティリッチ・ミール(7,706
 m)隊長・登頂
 1995 ネパール、パルチャモ(6,187m)隊長・
 登頂
 1996 ネパール、チュルー南東峰(6,400m)
 隊長・登頂
 1997 パキスタン、ガッシャーブルムⅡ(8,0
 35m)&ブロード・ピーク(8,051m)
 1998 ネパール、サイバル(7,031m)隊長・
 登頂
 1999 中国、カバン(6,717m)
 1999 中国、ナムナニ(7,694m)登頂

隊員：桐沢 輝治 (1938.11. 生) 61歳

- 1) 神奈川県横浜市
- 2) なし
- 3) なし
- 4) 1988 ヨーロッパ・アルプス、マッターホルン(4,478m)登頂
1999 ネパール、ゴークョ・ピーク(5,360m)登頂、カラバタール (5,545m)登頂

隊員：佐藤 邦彦 (1943.4. 生) 57歳

- 1) 福島県郡山市
- 2) 開成幼稚園
- 3) 福島こまくさ山岳会
- 4) 1967 ネパール、ニルギリ S (6,839m)偵察
1998 ヨーロッパ・アルプス、モンテローザ (4,634m)&マッターホルン(4,478m)登頂
1999 中国、アルタイ友誼峰(4,374m)

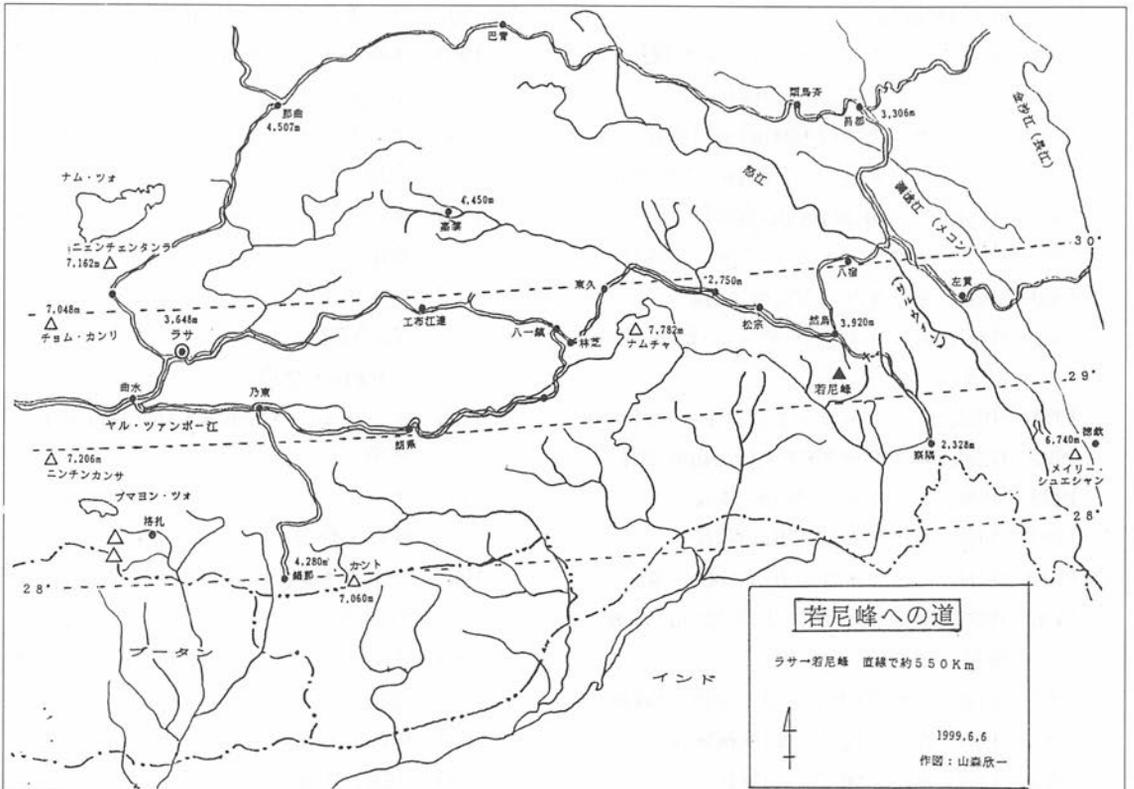
隊員：太田康夫 (1953.3. 生) 47歳

- 1) 広島県福山市

▼若尼峰北東面 (撮影：中村保)



- 2) 自営
- 3) なし
- 4) 1990 メキシコ、ポボカテペトル(5,452m)登頂
1993 中国、ユイチュ(6,179m)登頂
1994 中国、ルンボ・カンリ(7,095m)
1997 中国、クーラ・カンリII (7,418m)
1998 中国、カバン(6,717m)偵察



スパンティーク (7,027m) 登山計画

ごあいさつ

日本ヒマラヤ協会（英文略称H A J）は、広くヒマラヤ地域の登山・踏査・自然科学・人文科学について研究・実践する、ヒマラヤ愛好者約800名で構成する全国組織の任意団体であります。

この度、パキスタン・イスラム共和国の「スパンティーク峰」に登山隊を派遣することになりました。スパンティークは北面ナガル側バルプ氷河と南面バルティスタン地方のチョゴ・ルンマ氷河の源頭にそびえ、小カラコルムの山群の中でも比較的中央に位置するため、他のカラコルムの名峰を眺める展望台としても最適であります。この山の初登頂は1955年西ドイツ隊によってチョゴ・ルンマ氷河～南東稜からなされました。日本隊も初登ルートから2隊が登っております。今回我々の目指すルートは1992年神奈川ヒマラヤクラブ隊のルートで、チョゴ・ルンマ氷河～バズィン氷河BC～南東稜であります。バズィン氷河のBCからは、正面にスパンティーク全体を見渡すことが出来ます。この素晴らしいロケーションの中で、H A Jとしては初めてのパキスタンでのサマー・キャンプを展開していきたいと思っております。

パキスタンの登山は、スカルドへのフライトやポータートラブルなど、短期登山にとっては、いくつかの問題がありますが、情報の収集や今までの登山経験の蓄積を充分に生かし、細心の注意を払いかつ迅速な行動により、所期の目的を達成する所存であります。また、この登山を一つのステップとして、パキスタンでのサマーキャンプを続けていきたいと思っております。

なにとぞ、趣旨を御理解いただきまして、皆様の絶大なる御支援を賜りたくお願い申し上げます。
2000年5月

日本ヒマラヤ協会
スパンティーク登山隊
隊長 岩崎 洋

計画の概要

1. 隊の名称
日本ヒマラヤ協会・スパンティーク登山隊
2000年(HAJ・Spantik Expedition 2000)
2. 派遣母体
日本ヒマラヤ協会
3. 目標の山
パキスタンイスラム共和国
スパンティーク峰 (Spantik) 7,027m
4. 目的
スパンティーク峰の登頂
テイクイン、テイクアウトの実践
5. 登山期間
2000年7月14日～8月29日 (47日間)
6. 隊の構成
岩崎 洋隊長 以下7名
7. 推進の組織
日本ヒマラヤ協会・スパンティーク登山隊
実行委員会
会長：山森 欣一 (日本ヒマラヤ協会理事長)
委員長：岩崎 洋 (同 常務理事・隊長)
実行委員：八木原暁明 (同 常務理事)
尾形 好雄 (同 同)
中川 裕 (同 同)
野沢井 歩 (同 同)
登山隊 隊員
8. 隊の事務局 (留守本部を兼ねる)
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4丁目2番
7号 萬栄ビル501号 日本ヒマラヤ協会
TEL：(03)3988-8474 FAX：(03)3988-8502
夜間：7月9日まで (045)975-1241 岩崎 洋
7月10日から (03)3907-6847 中川 裕
9. 現地連絡先
NIPPA TRAVEL(Ms.Tadako Tokunaga or Keiko Ohsumi)
House No1,St.22,F7/2,Islamabad,PAKISTAN,P.O.Box2253
Tel; +92-51-824556(818256), Fax; +92-51-272958

日 程

- 7月10日 成田→イスラマバード (先発・岩崎、鈴木)
- 11~14日 先発業務
- 14日 成田→イスラマバード (本隊)
- 15~18日 イスラマバード滞在
- 19~20日 イスラマバード→スカルド
- 21日 スカルド滞在
- 22日 スカルド→アランドゥ
- 23~26日 アランドゥ→BC
- 27~8月19日 登山期間
- 8月20日~21日 予備日
- 22~23日 BC→アランドゥ
- 24日 アランドゥ→スカルド
- 25~26日 スカルド→イスラマバード
- 27日 イスラマバード滞在
- 28~29日 イスラマバード→成田

隊員名簿

隊員：岩崎 洋 (1960.2. 生) 40歳 O型

- 1) 栃木県足利市
- 3) 明治大学駿台山岳部OB会
- 4) 1984 インド、マモストン・カンリ(7,526m) 登頂
- 1986 中国、カルジャン(7,216m)初登頂
- 1993 インド、スフィンクス(6,824m)登頂 &ピラミッド・ピーク(7,123m)初登頂
- 1995 パキスタン、ディル・ゴム・ゾム(6,778m) &ティリッチ・ミール(7,706m) 登頂
- 1995 インド、サトパント(7,075m)登頂
- 1996 パキスタン、ディラン(7,257m)登頂
- 1996 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂
- 1997 パキスタン、ブロード・ピーク(8,051m) 登頂&ガッシャーブルム I (8,068m)
- 1997 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂
- 1998 サイパル(7,031m)登頂
- 1999 中国、カバン(6,717m)
- 1999 中国、ナムナニ(7,694m)登頂

隊員：大神田伊曾美 (1944.5. 生) 56歳 O型

- 1) 東京都立川市

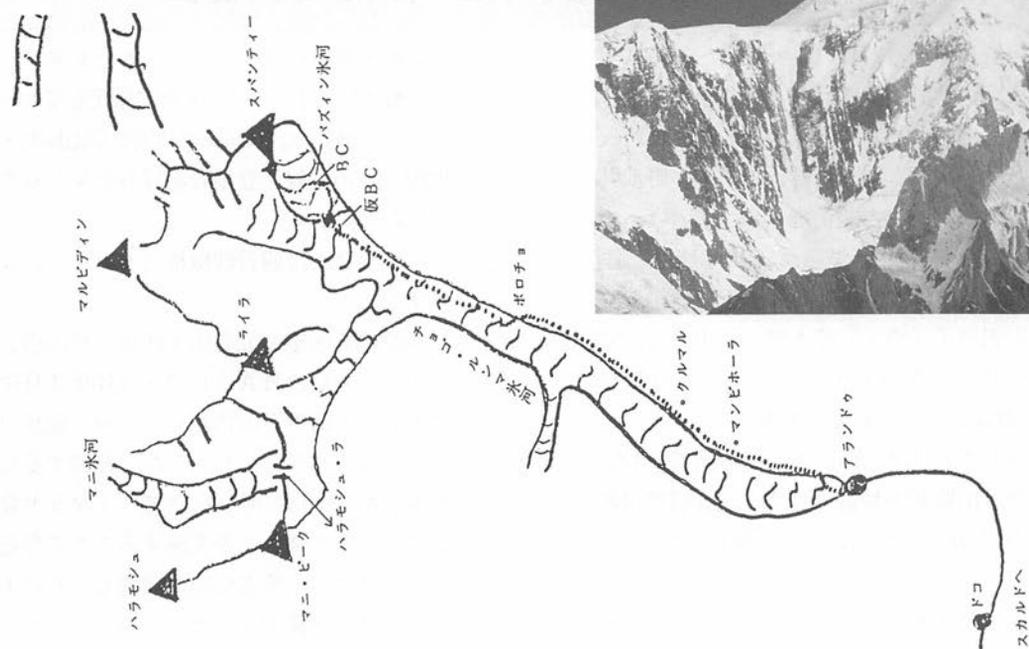
3) 八王子いわや山岳会、岩峯登高会

- 1996 タジキスタン、コルジェネフスカヤ (7,105m)登頂
- 1998 キルギス、レーニン(7,034m)登頂
- 1999 中国、チョー・オユー(8,201m)登頂
- 隊員：保坂 巖 (1955.1. 生) 45歳 A型
- 1) 山梨県甲府市
- 2) 井尻工業(株)
- 3) 山猫
- 4) 1997 カザフスタン、ハンテングリ(7,010m) 登頂
- 1997 キルギス、ポベダ(7,439m)登頂
- 隊員：高橋 敏雄 (1958.10. 生) 41歳 A型
- 1) 宮城県仙台市
- 2) 東北高校泉キャンパス
- 3) 東北学院大学山岳会
- 4) 1986 中国、チョー・アウイ(7,354m)登頂
- 1993 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂
- 1997 中国、ニンチンカンサ(7,206m)登頂
- 隊員：鈴木 正典 (1961.11. 生) 38歳 A型
- 1) 山形県西村山郡
- 3) 朝日山岳会
- 4) 1993 インド、ピラミッド・ピーク(7,123m) 登頂
- 1995 インド、マナ西峰(7,055m)初登頂
- 1996 パキスタン、ディラン(7,257m)登頂
- 1997 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂
- 1999 中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂
- 1999 ネパール、マナスル(8,163m)
- 隊員：大場裕美子 (1967.1. 生) 33歳 A型
- 1) 静岡県焼津市
- 2) (株)クリエイターズクラブアルゴ
- 3) やまくら同人
- 4) 1997 アルゼンチン、アコンカグア(6,959m) 登頂
- 隊員：小泉 太史 (1971.2. 生) 29歳 A型
- 1) 埼玉県草加市

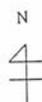
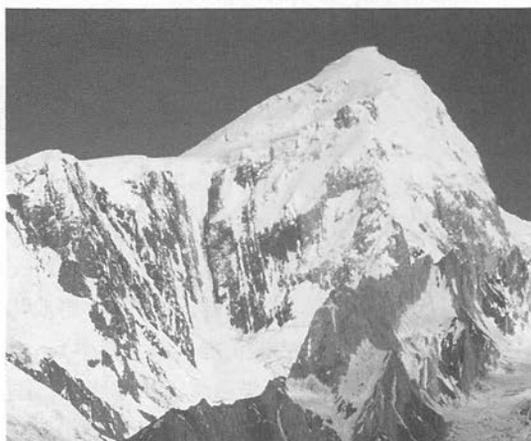
2) 三好運送(株) ☎0489-22-0111

3) やまくら同人

4) なし



▼スパンティーク南東面 (撮影・野沢井歩)



Simple & Clean Climebing for Himalaya

クーラ・カンリ主峰登山計画

〔はじめに〕

クーラ・カンリ(7,538m)は近くて良い山である。H A Jでは1983年冬、初めて北京を訪問した折りにクーラ・カンリ峰の登山申請を行ったが主峰の登山は実現しなかった。代わりに山群にあるカルジャン(7,216m)に86年秋、登山隊を派遣し初登頂に成功することができた。この登山隊に参加したのが岩崎で、頂上から主峰をみて山群の主峰に心ひかれた。私は、97年春にチベットと合同でII峰登山を実行した折りに主峰南面を訪れる機会を得て北面に勝とも劣らない山姿に感動した。

昨年秋、ナムナニの新ルートを実アルパイン・スタイルで登攀した岩崎、野沢井からの夏の登山の順応を生かしてクーラ・カンリ主峰を再びアルパイン・スタイルで試みたいと希望が寄せられた。高所遠足流行りの中で貴重な試みである。鈴木を加えた3名で南面から登攀を予定している。

〔隊の構成〕#詳細は二つの登山隊を参照。

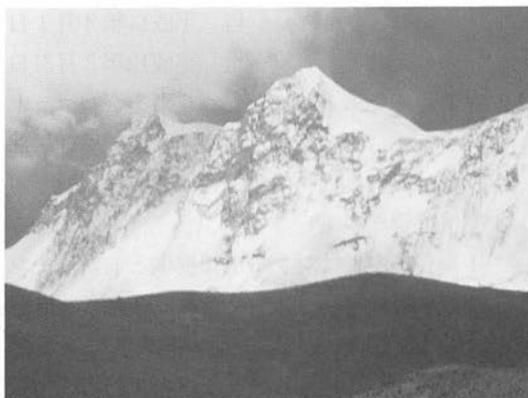
隊長：山森欣一(56)

隊員：岩崎洋(40)、鈴木正典(38)、野沢井歩(35)

〔ラサ～BC～ラサ 日程〕

9月8日～9月30日(23日間)

(記：山森 欣一)



▲クーラ・カンリ南面 (撮影・山森欣一)

平成12年度

日本ヒマラヤ協会通常総会報告

日時 平成12年5月27日(土)13時～14時10分
会場 東京、池袋 かんぽヘルスプラザ東京
出席者 本人出席：酒井國光(会長)、山森欣一、
八木原囿明、尾形好雄、中川裕、野沢井
歩、戸谷薫、古関正雄(以上理事)、中
岡久(監事)、天城敏彦、橋本康弘、国
沢鎮雄(以上評議員)鈴木正典(山形)
寺沢玲子(埼玉)鈴木雄一、出口當、宮
川裕子、森山安次(以上東京)江藤公
(静岡)岡田伊佐男(長崎)
以上本人出席20名、委任状提出者274名
合計出席者294名。定足数は会員数774名
の三分の一259名、よって総会は成立。

総会次第

1) 中川裕常務理事の司会で定刻開会。総会に先立ち、酒井会長から挨拶を戴いた後、定款の規定では議長は理事長であるが、理事長が各議案説明に当たるため、出席者同意の上、議長席に八木原常務理事が着席。議事録署名人に鈴木正典、森山安次両会員を選んで議事に入った。

2) 議事

議案第1号から第4号について山森理事長から説明がなされて全て満場一致で承認された。理事会報告があり、平成12年度総会を終了した。

平成11年度事業報告

自 平成11年4月1日

至 平成12年3月31日

I. 定款第4条第1項にもとづく事業(ヒマラヤに関する総合的な資料と情報の収集・整理・保存及び、それらの利用希望者に対する便宜供与)

1. 情報管理事業

1) 会員内外に対する情報提供とトレッキング・踏査・登山計画の企画・研究等の指導。
年間100件を越す電話・FAXによる照会と50件を越える事務所への来訪者へ情報提供と指導を実施した。

2) 文献・資料のレファレンスサービス

一般的に入手しづらいものに限定してサービスを実施した。ヒマラヤ諸国の登山規則・地図・登山記録・登頂者記録等に関する希望者が多い。

2. ヒマラヤ登山情報管理機構(センター)設立事業

21世紀を展望して登山4団体(日山協、労山、JAC、HAJ)が平成10年3月に合意した「海外登山情報センター」構想の進展が見られないため、これを打開するため本会が3団体に呼び掛けて「ヒマラヤ登山アンケート調査」を実施することで合意。2月、3月と実務者会議を開催し、6月実施に向けて準備中である。アンケートの対象者は千名規模を予定している。

II. 定款第4条第2項にもとづく事業(登山をはじめとする野外活動と関連する諸分野に関する研究活動と成果の公表)

1. 調査研究事業

1) 高所登山における事故防止に関する調査研究

ヒマラヤ登山における日本隊の死亡遭難事故は、1968年から32年間連続して発生しており、これをストップさせるため、事故の実態をまとめ「高所登山 事故と環境対策研修会」で公表すると共に事故例について解説した。1999年は標高六千メートル以上の峰の死亡事故は、カラコルムのバトゥラIの雪崩による3名の死亡だけであった。

2) 高所登山に対する意識調査

前述したように登山4団体共同でアンケート調査を実施すべく協議・準備を行った。

3) 山岳の自然を汚染しないで実施する登山・踏査活動の研究

HAT-Jが発行しているテキスト「テイクイン、テイクアウト」の改定版発行に

ついて委員を派遣し指導した。同書は2000年1月に刊行された。

2. 出版事業（研究報告）

- 1) 寧金抗沙峰（97年ニンチン・カンサ登山隊報告書）の発行（6月）
- 2) 神々の座 8,000m峰のデータ（1998年版）の発行（9月）
- 3) 日中合同登山隊（97年）報告書発行準備
- 4) アルタイ山脈登山隊（99年）報告書発行準備

3. 関連学術事業

興味ある地域への派遣準備

Ⅲ. 定款第4条第3項にもとづく事業（ヒマラヤへの登山をはじめとする野外活動・研究・調査等の団体の派遣）

1. 高所登山事業

- 1) サマー・キャンプ「チョム・カンリ（7,048m）」登山隊の派遣

7月20日～8月25日に関根幸次隊長以下8名を派遣し、8月15日に南面から3名が登頂した。

- 2) サマー・キャンプ「アルタイ山脈登山隊」の派遣

7月24日～8月21日に酒井國光隊長以下7名を派遣し、友誼峰4,000mまで達したものの登頂を断念した。

- 3) チベット連続登頂登山隊「カバン（6,717m）～「ナムナニ（7,694m）」の派遣

9月10日～11月10日に山森欣一隊長以下カバン峰7名、ナムナニ峰6名を派遣しカバン峰は6,550mで登頂を断念したが、ナムナニは10月25日北面新ルートから登頂し、西面を下降した。また、ナムナニの北にあるグナ・ラ（6,902m）に5名が登頂した。

- 4) 直轄プロジェクトの推進

- イ) 平成12年度サマー・キャンプ「スパンティック（7,027m）登山」

夏の登山実施に向けて本格的に隊を構成（岩崎洋隊長以下7名）した。

- ロ) 平成12年度「ルオニ（6,610m）登山」

夏の登山実施に向けて本格的に隊を構成（山森欣一隊長以下6名）した。

- ハ) 平成12年度「クーラ・カンリ I（7,538m）登山」

秋の登山実施に向けて本格的に隊を構成（山森欣一隊長以下4名）した。

- ニ) 平成13年度「ヤンラ・カンリ（7,429m）登山」

秋の実施に向け隊員募集に着手した。

- ホ) 時期到来の折りに実施する「H A J & 四川省登山協会合同登山」

四川省登山協会と中国登山協会に口頭で申し入れと協議を行った。

- 5) 登山許可申請と取得

ヒマラヤ高所登山分野での現状を分析しつつ、ヒマラヤ登山の大衆化の分野の声に応えると共に、未知と困難への挑戦の育成を視野にいれ、魅力ある高峰について各国へ登山許可申請を行った。

2. 野外活動事業

- 1) ヒマラヤ各国の魅力ある地域への踏査・トレッキング隊の派遣について企画準備を行った。

Ⅳ. 定款第4条第4項にもとづく事業（機関誌、その他の刊行物、登山・野外活動、研修、各種会合によるこの分野の健全な発達を図るための指導・啓蒙活動）

1. 機関誌発行事業

「ヒマラヤ329号～340号を毎月発行した。

2. 出版事業

- 1) 「ネパール登山の手引き」改訂版を発行した。（8月）

3. 指導・啓蒙事業

- 1) 日本ヒマラヤ会議の開催
各地の条件が整わず開催できなかった。
- 2) 地域ヒマラヤ集会の開催
各地の条件が整わず開催できなかった。
- 3) 定例会
毎月東京ルームで開催した。
- 4) 第21回「インド・ヒマラヤ会議」の開催
1月16日東京にて開催。平成11年度隊の報告と情報交換を行った。参加者39名。
- 5) 第8回「中国登山研究会」の開催
2月6日東京にて開催。平成11年度隊の

報告と情報交換を行った。参加者35名。

6) 第6回「高所登山 事故と環境対策研究会」の開催

4月4日HAT-Jと共催して東京にて開催。雪崩や高所順応、テイクイン、テイクアウトについて研修した。参加者60名。

7) 壮行会

7月10日東京で開催。計画の発表と情報の伝達。チョム・カンリ、友誼峰、チベット連続各登山隊。(150名)

8) HAJ華甲望年会

12月11日東京で開催。本年度3隊の登山報告と本年中に還暦を迎えた会員3名を祝い、行く年を惜しみ来る年を語った。(89名)

V. 定款第4条第5項にもとづく事業（その他、前条の目的を達成するために必要と認める事業）

1. 国際交流事業

1) 外国代表の招請

実施しなかった。

2) 代表の派遣

イ) 山森専務理事を中国登山協会、四川省登山協会、新疆登山協会と協議のため派遣した。(4月27日～5月6日)

ロ) 寺沢常務理事をパキスタン国際山岳観光会議出席のためベンジャワールへ派遣した。(4月30日～5月10日)

ハ) 岩崎常務理事をインド登山財団主催のミレニアム・ミート出席のためニューデリーへ派遣した。(11月15日～16日)

3) 各ヒマラヤ諸国の関係者との交流

イ) アメリカ、ヒューズ氏とキャラ・ペリの件で懇談(4月)

ロ) 中国登山協会訪日団歓迎会(5月)

ハ) 中国登山協会訪日団歓迎会(2月)

ニ) アメリカ、AAJ編集長ベック・ウィズ氏と懇談(2月)

2. 国内関係団体との協調

1) 本会の呼び掛けで日山協、労山、JACと「登山4団体三役懇談会」を行行情報交換と協議を行った。(7月)

2) 本会の呼び掛けで上記4団体で「ヒマラヤ登山者アンケート調査」の実施について

合意した。(2月)

3) HAT-Jと協力してテイクイン、テイクアウト運動の啓蒙活動を行った。

4) その他、山岳3団体等と協力・情報交換を行った。

3. 組織の整備

1) 終身会員への移行を積極的にアピールした結果21名を得た。

2) ワープロからパソコンへの移項について検討した。

II. 財産目録

(平成12年3月31日現在、単位：円)

種別	摘要	金額
1. 現金	手許現金	(37,764) 37,764
2. 普通預金	第一勧業銀行高田馬場支店No.1099791 東京三菱銀行新宿支店No.4455421	(3,298,521) 2,303,328 995,193
3. 郵便振替	00100-6-48954	(257,701) 257,701
4. 備品	事務所備品	(200,000) 200,000
5. 登山装備	中国・デポ 事務所・デポ	(700,000) 500,000 200,000
資産合計		4,493,986
6. 未払金	柴田金之助	(100,000) 100,000
7. 預り金	新年度入会者 9名分	(135,000) 135,000
8. 前受金	2000年度登山隊分	(1,228,956) 1,228,956
8. 借入金	柴田金之助 植松秀之 小島守夫 稲田定重 扱い	(8,100,000) 2,000,000 600,000 500,000 5,000,000
負債合計		9,563,956
差し引き正味財産		△ 5,069,970

平成11年度収支決算書

自 平成11年 4月 1日
至 平成12年 3月31日

平成12年度事業計画書

自 平成12年 4月 1日
至 平成13年 3月31日

I. 一般会計

(収入の部)

(単位：円)

勘定科目		予算額	決算額	増・減(△)
大科目	中科目			
入会金収入		(500,000)	(325,000)	(△ 175,000)
	入会金収入	500,000	325,000	△ 175,000
会費収入		(9,000,000)	(9,250,000)	(250,000)
	通常会員会費	6,000,000	6,170,000	170,000
	終身会員会費	3,000,000	3,080,000	80,000
事業収入		(16,400,000)	(14,404,275)	(△ 1,995,725)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	14,700,000	12,159,208	△ 2,540,792
	指導啓蒙事業	200,000	448,000	248,000
	機関誌発行事業	800,000	1,142,487	342,487
	出版事業	500,000	654,580	154,580
	国際交流事業	200,000	0	△ 200,000
	その他事業	0	0	0
雑収入		(300,000)	(370,007)	(70,007)
	雑収入	300,000	370,007	70,007
前期繰越		(△ 5,159,983)	(△ 5,159,983)	(0)
	前期繰越	5,159,983	5,159,983	0
合計		21,040,017	19,189,299	△ 1,850,718

(支出の部)

(単位：円)

勘定科目		予算額	決算額	増・減(△)
大科目	中科目			
管理費		(8,820,000)	(8,371,798)	(△ 448,202)
	給料手当	5,000,000	5,000,000	0
	通信運搬費	400,000	309,714	△ 90,286
	電話料	300,000	155,257	△ 144,743
	消耗品・文具費	100,000	37,956	△ 62,044
	営繕備品費	0	0	0
	印刷製本費	700,000	638,416	△ 61,584
	図書費	50,000	71,739	21,739
	貸借料	1,800,000	1,719,900	△ 80,100
	光熱水費	150,000	149,834	△ 166
	会議費	20,000	32,760	12,760
	広報費	200,000	204,120	4,120
	雑費	100,000	52,102	△ 47,898
事業費		(16,650,000)	(15,887,471)	(△ 762,529)
	野外活動事業	0	0	0
	高所登山事業	13,000,000	12,470,488	△ 529,512
	指導啓蒙事業	150,000	202,757	52,757
	機関誌発行事業	2,800,000	2,694,840	△ 105,160
	出版事業	500,000	307,820	△ 192,180
	国際交流事業	200,000	211,566	11,566
次期繰越		(△ 4,429,983)	(5,069,970)	(△ 639,987)
	次期繰越	(△ 4,429,983)	(△ 5,069,970)	(△ 639,987)
合計		21,040,017	19,189,299	△ 1,850,718

I. 定款第4条第1項にもとづく事業(ヒマラヤに関する総合的な資料と情報の収集・整理・保存及び、それらの利用希望者に対する便宜供与)

1. 情報管理事業

- 1) 会員内外に対する情報提供とトレッキング・踏査・登山計画の企画・研究等の指導
- 2) 文献・資料のレファレンスサービス

2. ヒマラヤ登山情報管理機構(センター)設立事業

21世紀を展望して登山4団体(日山協、労山、JAC、HAJ)が平成10年3月に合意した「海外登山情報センター」の早期設立に向けて積極的に取り組む。着手済みの「ヒマラヤ登山者アンケート調査」を実施し、その分析を行う。

II. 定款第4条第2項にもとづく事業(登山をはじめとする野外活動と関連する諸分野に関する研究活動と成果の公表)

1. 調査研究事業

- 1) 高所登山における事故防止に関する調査研究
- 2) 高所登山に対する意識調査
- 3) 山岳の自然環境を汚染しないで実施する登山・踏査活動の研究

2. 出版事業(研究・報告)

- 1) 日中合同登山隊(97年)報告書の発行
- 2) チベット連続登頂登山隊報告書の発行
- 3) アルタイ登山隊報告書の発行
- 4) 神々の座「8000m峰データ(99年版)」の発行

3. 関連学術事業

興味ある地域への派遣準備

III. 定款第4条第3項にもとづく事業(ヒマラヤへの登山をはじめとする野外活動・研究・調査等の団体の派遣)

1. 高所登山事業

- 1) サマー・キャンプ「スパンティーク(7,027m)」登山隊の派遣

7月14日～8月29日(岩崎洋隊長以下7名)

2) 「ルオニ(6,610m)」登山隊の派遣

7月28日～9月10日(山森欣一隊長以下6名)

3) 「クーラ・カンリ I (7,538m)登山隊の派遣

9月8日～10月5日(山森欣一隊長以下4名)

4) 直轄プロジェクトの推進

イ) 平成13年度「ヤンラ・カンリ(7,429m)登山」

ロ) 平成13年度サマー・キャンプ「ニンチン・カンサ(7,206m)登山」

ハ) 平成13年度サマー・キャンプ「スペイン・ティーク(7,027m)登山」

ニ) 時期到来の折りに実施する「H A J & 四川省登山協会合同登山」

ホ) H A Jとして未着手の天山山脈登山隊派遣準備

5) 登山許可申請と取得

ヒマラヤ高所登山分野での現状を分析しつつ、ヒマラヤ登山の大衆化の分野の声に応えると共に、未知と困難への挑戦の育成を視野にいれ、魅力ある高峰について各国へ登山許可申請を行う。

2. 野外活動事業

ヒマラヤ各国の魅力ある地域への踏査・トレッキング隊の派遣準備を行う。

IV. 定款第4条第4項にもとづく事業(機関誌、その他の刊行物、登山・野外活動、研修・各種会合によるこの分野の健全な発達を図るための指導・啓蒙活動)

1. 機関誌発行事業

ヒマラヤ341～352号を発行

2. 出版事業

1) 「中国登山の手引き」第5版の発行。(8月)

3. 指導・啓蒙事業

1) 日本ヒマラヤ会議の開催

各理事と協議し条件が整い次第随時開催。

2) 地域ヒマラヤ集会の開催

各評議員と協議し条件が整い次第随時開催。

3) 定例会

毎月東京で開催。

4) 第22回「インド・ヒマラヤ会議」の開催
平成12年度隊報告と情報交換。

5) 第9回「中国登山研究会」の開催
平成12年度隊の情報交換。

6) 第8回「高所登山 事故と環境対策研究会」の開催。

東京にて開催。雪崩や高所順応、テイクイン、テイクアウトについて研修。

7) 壮行会

東京で開催、計画の発表と情報の伝達。

8) H A J 華甲望年会

12月9日(土)東京で開催。本年度3隊の登山報告と本年中に還暦を迎える会員を祝い、行く年を惜しみ来る年を語る。

V. 定款第4条第5項にもとづく事業(その他、前条の目的を達成するために必要と認める事業)

1. 国際交流事業

1) 外国代表の招請

必要に応じて随時招請する。

2) 代表の派遣

必要に応じて随時派遣する。

3) 各ヒマラヤ諸国の関係者との交流

来日したヒマラヤ登山関係者と随時懇談。

2. 国内関係団体との協調

1) 本会の呼び掛けで日山協、労山、J A C と「登山4団体三役」懇談会を行い情報交換と協議を行う。(7月14日・金)

2) 上記4団体で「ヒマラヤ登山者アンケート調査」を実施する。(6月～7月)

3) H A T - J と協力してテイクイン、テイクアウト運動の啓蒙活動を推進する。

4) その他、山岳3団体等と協力・情報交換を行う。

3. 組織の整備

1) 執行体制の強化

本部近郊会員の協力を得て、非常勤スタッフを育成する。

2) 会員拡大の強化

イ) 一般会員の新規加入の一大キャンペーンを推進。

ロ) 終身会員への移行を推進。

3) パソコンへの移項を実施する。

平成12年度収支予算書

都道府県別会員数

自 平成12年 4月 1日
至 平成13年 3月 31日

(平成12年 5月 20日現在)

I. 一般会計

(収入の部)

(単位：円)

勘定科目		予算額	前年度予算額	増・減(△)
大科目	中科目			
入金会収入	入金会収入	(500,000) 500,000	(500,000) 500,000	(0) 0
会費収入	通常会員会費 終身会員会費	(9,000,000) 6,000,000 3,000,000	(9,000,000) 6,000,000 3,000,000	(0) 0 0
事業収入	野外活動事業 高所登山事業 指導啓蒙事業 機関誌発行事業 出版事業 国際交流事業 その他事業	(11,900,000) 0 10,000,000 200,000 800,000 800,000 100,000 0	(16,400,000) 0 14,700,000 200,000 800,000 500,000 200,000 0	(△4,500,000) 0 △4,700,000 0 0 300,000 △ 100,000 0
雑収入	雑収入	(300,000) 300,000	(300,000) 300,000	(△ 90,013) 90,013
前期繰越	前期繰越	(△ 5,069,970) △ 5,069,970	(△ 5,159,983) △ 5,159,983	(90,013) 90,013
合計		16,630,030	21,040,017	△ 4,409,987

(支出の部)

(単位：円)

勘定科目		予算額	前年度予算額	増・減(△)
大科目	中科目			
管理費	給料手当 通信運搬費 電話費 消耗品文具費 営繕備品費 印刷製本費 図書費 貸借料 光熱水費 会議費 広報費 雑費	(8,730,000) 5,000,000 400,000 300,000 50,000 0 650,000 50,000 1,800,000 150,000 30,000 200,000 100,000	(8,820,000) 5,000,000 400,000 300,000 100,000 0 700,000 50,000 1,800,000 150,000 20,000 200,000 100,000	(△ 90,000) 0 0 0 △ 50,000 0 △ 50,000 0 0 0 10,000 0 0
事業費	野外活動事業 高所登山事業 指導啓蒙事業 機関誌発行事業 出版事業 国際交流事業	(12,450,000) 0 90,000,000 150,000 2,800,000 300,000 200,000	(16,650,000) 0 13,000,000 150,000 2,800,000 500,000 200,000	(△4,200,000) 0 △4,000,000 0 0 △ 200,000 0
次期繰越	次期繰越	(△ 4,549,970) △ 4,549,970	(△ 4,429,983) △ 4,429,983	(△ 119,987) △ 119,987
合計		16,630,030	21,040,017	△ 4,409,987

北海道	60(5)[14]	60(5)[14]	和歌山	3(0)[0]
青森	7(2)[0]		奈良	3(1)[0]
秋田	7(1)[0]		滋賀	7(0)[1]
岩手	8(1)[1]		京都	13(4)[1]
宮城	13(2)[2]		大阪	22(3)[1]
山形	22(5)[0]		兵庫	18(1)[1] 66(9)[4]
福島	28(7)[5]	85(19)[8]	岡山	4(1)[0]
栃木	18(3)[2]		広島	11(6)[2]
群馬	40(16)[7]		鳥取	4(0)[1]
茨城	12(4)[0]		山口	5(2)[1]
埼玉	55(14)[9]		香川	3(1)[0]
千葉	31(8)[5]		愛媛	3(2)[0]
神奈川	69(15)[9]	225(60)[32]	高知	4(1)[0]
東京	157(32)[23]	157(32)[23]	島根	0
山梨	9(2)[0]		徳島	0 34(13)[4]
新潟	1(0)[0]		福岡	29(3)[0]
富山	7(1)[0]		佐賀	1(1)[0]
福井	3(0)[0]		大分	4(0)[0]
石川	9(2)[1]		長崎	6(2)[0]
長野	20(6)[0]	49(11)[1]	熊本	2(0)[0]
静岡	7(0)[2]		宮崎	1(0)[0]
愛知	24(3)[2]		鹿児島	0
岐阜	7(2)[1]		沖縄	0 43(6)[0]
三重	5(0)[0]	43(5)[5]	国外会員	11(0)[0] 11(0)[3]
*()内は終身会員数			総計	774(160)[91]
[]内は女性会員			(前年度)	756(138)[86]
*夫婦会員37組(その内17組は終身会員)。				

貸借対照表

(平成12年 3月 31日現在)

(単位：円)

借方	金額	貸方	金額
現金	37,764	未払い金	100,000
普通預金	3,298,521	預かり金	135,000
郵便振替	257,701	前受金	1,228,956
備品	200,000	借入金	8,100,000
登山装備	700,000	次期繰越金	△5,069,970
合計	4,493,986	合計	4,493,986

平成11年度入会者一覧

番 号	氏 名	生年月日	住 所	電話番号	所 属
2673	宮澤 章	38, 5,22 (61)	横須賀市	0467-86-5557	横須賀山岳
2674	上妻 恒宣	48,12,25 (51)	いわき市	0246-22-3098	
2675	高田 良一	59, 6,29 (40)	大宮市	048-622-7233	
2676	近藤 清夫	38, 7,10 (61)	板橋区	03-3931-3566	
2677	小林 晴美	59, 4, 8 (40)	東松山市	0493-25-1762	
2678	生玉 道雄	40,12, 3 (59)	高知県	0889-22-3545	
2680	大神田伊曾美	44, 5, 4 (55)	立川市	042-527-0246	岩峯登高会
2681	錦織 英夫	40, 6,26 (59)	飯能市	0429-74-1214	学習院大OB
2682	瓦林 紘司	40, 1,22 (59)	福岡市	092-565-6597	福岡岳友会
2683	長島 義人	63. 7. 3 (36)	目黒区	03-3723-4194	登稜会
2684	恩田真砂美	67, 3,19 (32)	中野区	03-3383-6034	上智大学OG
2685	神谷 進	40,11, 1 (59)	横須賀市	0468-23-5911	横須賀山岳
2686	下越田 功	43, 7,30 (46)	横須賀市	0468-57-1257	横須賀山岳
2687	井出 里香	63, 8,18 (36)	中央区	03-3533-1526	女子登攀C
2688	亀田 広明	65,10,15 (34)	名古屋市	052-741-3315	拓殖大学OB
2689	関 太郎	70,11, 7 (29)	横浜市	045-382-0947	秀峰登高会
2690	宗像 充	75, 9,13 (24)	国立市	042-571-4949	一橋大学OB
2691	桐沢 輝治	38,11,22 (61)	横浜市	045-951-7398	
2692	鈴木 量子	68,11,14 (31)	千葉県	0470-87-4327	
2693	野津 基弘	71,12,24 (28)	岡山市	086-279-1231	
2694	庄田 一信	55, 6,16 (44)	杉並区	03-3315-9769	
2695	亀田 幸一	64, 3, 2 (35)	伊勢原市	0463-95-6864	茅ヶ崎山岳
2696	浅野 能弘	67, 1,29 (32)	名古屋市	052-807-6215	
2697	平岡 竜石	68,10,29 (31)	川崎市	044-966-7154	チーム84
2698	久保田昌幸	67, 5, 8 (32)	前橋市	027-221-2440	前橋山岳会
2699	富田 政裕	63, 5,29 (36)	蕨 市	048-443-5202	
2700	玉井 雅治	50, 3, 1 (49)	愛媛県	0898-73-2808	
2701	上野 孝一	54,10,20 (45)	江戸川区	03-3688-8133	区役所山岳
2702	瀧根 正幹	51,10,17 (48)	名古屋市	052-991-5466	名古屋千種
2703	坂口 三郎	26,11,22 (73)	宇都宮市	028-622-2953	宇都宮山岳
2704	加藤 伊介	38,11,19 (61)	飯能市	0429-77-1931	
2705	海老 潤子	73, 2, 7 (26)	福島市	0245-539-8406	
2706	出利葉義次	58, 3,29 (41)	清水市	0543-51-3907	東海大学OB
2707	吉村 賢	68,12,18 (31)	一宮市	0586-69-8765	名古屋山岳
2708	岩崎美津子	62, 3,12 (37)	盛岡市	045-975-1241	
2709	周 軍平	71, 6,13 (28)	成都市		
2710	三井 素子	73, 4, 4 (26)	春日市	092-591-9921	
2711	伊東 仁司	49, 7,31 (50)	札幌市	011-641-6044	
2712	田中 文男		上尾市	048-775-1723	

2713	佐藤真理子	66, 5,10 (33)	小金井市	090-2324-4414	好山会
2714	斉藤 義孝	49, 1, 8 (50)	横浜市	045-715-9150	太田労山
2715	荒川 洋子	61, 5, 1 (38)	U S A		
2716	小林 俊紀	40,11,26 (59)	千葉市	043-223-6747	岳樺
2717	古屋 仁志	67, 9, 1 (32)	山梨市	0553-22-9670	山梨A.C
2718	遠山 雄二	53, 8,10 (46)	田無市	0424-62-2263	
2719	関根 吉江	35, 5,23 (64)	川口市	048-266-7713	イワカガミ
2720	下間 洋司	70, 6,15 (29)	北海道	01588-2-3273	北見山岳会
2721	谷口 静枝	57,10, 5 (42)	旭川市	0166-55-8496	札幌中央労
2722	福永 泰三	70, 5,21 (29)	新座市	0424-72-1580	バーバリア
2723	小田 直美	54, 1,26 (45)	静岡県	054-667-1882	静岡山岳会
2724	宮坂 敦子	59, 1,27 (40)	三鷹市		
2725	鳥居 和雄	42, 7,21 (57)	世田谷区	03-3411-3654	法政大学OB
2726	福原 裕	47, 2,11 (52)	札幌市	011-874-0855	
2727	大林 公紀	70, 9,12 (29)	秦野市	0463-82-6645	緑山岳会
2728	丸山 博司	37, 6,10 (62)	葛飾区	03-3692-1735	
2729	横山 浩二	67, 5,24 (32)	国分寺市	042-323-0243	昭和山岳会
2730	片平 和志	49, 6,29 (50)	調布市	0424-90-0230	山岳同志OB
2731	平田 攻	41, 3,26 (58)	福岡県	092-328-3682	電電九州
2732	吉松 哲俊	44,10,18 (55)	大野城市	092-581-1122	電電九州
2733	櫻井 利行	59,12,29 (40)	板橋区	03-3933-1826	
2734	森谷 信次	48, 5,28 (51)	郡山市	024-943-2019	こまくさ
2735	大内 一成	41, 8, 3 (58)	栃木県	0282-43-2508	羚羊山岳会
2736	長谷川和雄	46, 1,21 (53)	相模原市	042-752-4359	
2737	青木 玲子	58, 6, 5 (41)	帯広市	0155-33-0496	帯広労山
2738	小泉 太史	71, 2,14 (28)	草加市	090-2628-9488	
2739	城 隆嗣	37, 1, 4 (62)	吹田市	06-6388-4421	大阪鋭峰会

#11年度入会者66名(内女性14名) #No.2679は10年度処理。

#20代=10名、30代=16名、40代=14名、50代=17名、60代=8名、70代=1名。

平均年齢44.3歳(男:45.9、女:38.6)

HAJサマー・キャンプ募集

2001年 ニンチン・カンサ(7,206m)

ラサから半日行程の所にヤムドク・ツォと呼ばれる大きくて美しい湖があります。その湖を見下ろすようにそびえているのが名峰ニンチン・カンサです。HAJは既に2回登頂に成功しています。ラサからゆっくりと入山し、登山期間は26日間、

ルートは西稜を予定しています。

HAJの登山隊は全てガイド登山ではありません。自己責任を認識して登山隊を構成します。

記

1. 期 間:2001年7月20日=8月25日(37日間)
2. 募集人員:10名程度
3. 負 担 金:85万円
4. 切 り 定員になり次第
5. 申し込み:HAJ事務局まで

■ 寸 感 ■

日山協、労山、JACとHAJが共同で進めている「ヒマラヤ登山者アンケート調査」が苦戦している。総数約千通を発送したが、6月30日現在で約230通の回答である。この推移では30%回収できれば上出来かも知れない。

日本人のこれまでの7,000m峰以上の実登頂者は、昨年末現在で1280名である。入山者延が48年間で7,047名である。複数登頂者は306名。8,000m峰を1回登頂が151名。7,000m峰を1回登頂が823名となっている。皆様の感想は？ (山森)

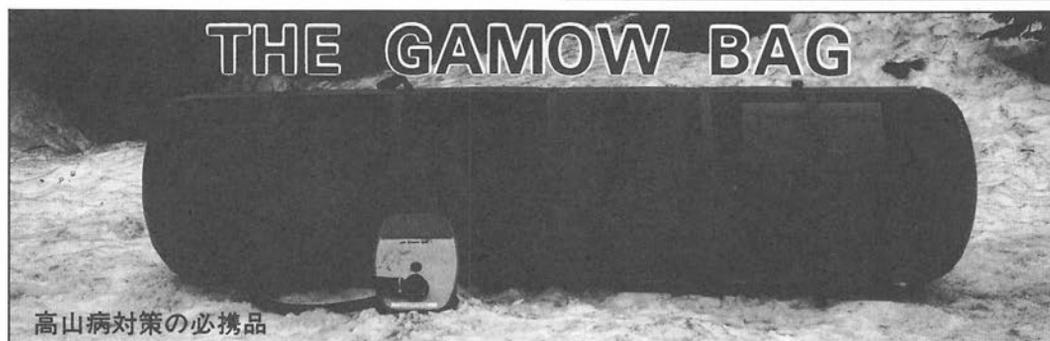
事務局日誌(6月)

- 3日(土)～4日(日) 第20回日本登山医学シンポジウム(山森、岩崎、中川)
5日(月) 登山4団体「ヒマラヤ登山者アンケート調査」発送(山森、野沢井)
ルオニ隊隊荷発送
8日(木) CMAへ2隊分送金
9日(金) ヒマラヤ344号発送

- 10日(土) 飛田和夫壮行会(於大宮、遠藤、山森)
12日(月) CMAヘクーラ・カンリ登路の件と無線機の件連絡
22日(木) ルオニ隊、クーラ・カンリ隊ビザ申請(山森)
24日(土) 故・角田不二17回忌追悼会(於池袋、高松、25名)
26日(月) 東京集会(15名)
30日(金) スパンティック隊隊荷発送

ヒマラヤ No.345 (8月号)

平成12年7月10日印刷 12年8月1日発行
発行人 山森欣一
編集人 山森欣一
発行所 日本ヒマラヤ協会
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7
萬栄ビル501号
電話 03-3988-8474
郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高压バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店：日本メディコ株式会社*

レンタル・販売問い合わせ先：株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階
TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510
(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR



EXPEDITION & TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。

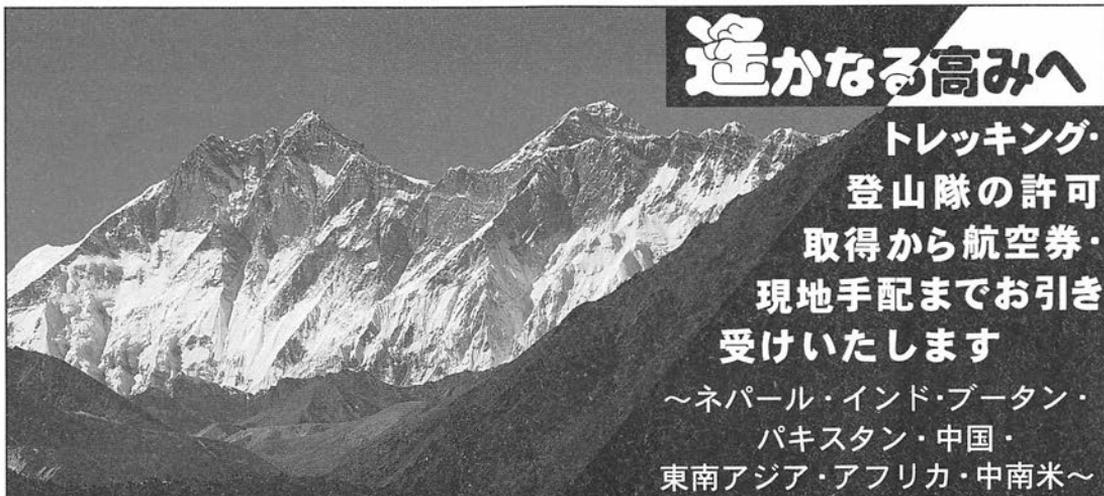


マウンテントラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号



遙かなる高みへ

トレッキング・
登山隊の許可
取得から航空券・
現地手配までお引き
受けいたします

～ネパール・インド・ブータン・
パキスタン・中国・
東南アジア・アフリカ・中南米～

トレッキング・海外登山・シルクロード・
秘境旅行のパイオニア



株式会社 西遊旅行

運輸大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員

■本社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1
岩波書店アネックス5階
☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396
■大阪営業所 〒530-0026 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5階
☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966
■カトマンズ連絡事務所 (JAI HIMAL TREKKING/SAIYU TRAVEL)
P.O. BOX 3017, Durbar Marg, KATHMANDU, NEPAL
☎221707, 224248

●格安航空券はこちらに!



キャラバンデスク

キャラバンデスク東京(住所:本社内) ☎03(3237)8384(代) FAX 03(3237)0638
キャラバンデスク大阪(住所:大阪営業所内) ☎06(6362)6060(代) FAX 06(6367)1966

◆パンフレット請求や個人旅行のお申し込みは
フリーダイヤルをご利用下さい

(通話料無料)

0120-811395

西遊旅行ホームページ (<http://www.saiyu.co.jp/>)

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店/〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店/〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店/〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店/〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア館/〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店/〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店/〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店/〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(64)5707
- 高崎店/〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店/〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店/〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブルーカ店/〒950 新潟県新潟市天神1-1ブルーカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店/〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店/〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店/〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店/〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店/〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店/〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店/〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外商部(メールオーダー)/〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所/〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004